



「城下町おおがき新春マラソン2014」が1月3日、中心市街地で開かれ、約3,400人のランナーが走り初めを楽しみました。

この大会は、市民の皆さんの健康増進、スポーツ振興、中心市街地の「にぎわい創出」を図るもので、大垣市商店街振興組合連合会や大垣市陸上競技協会などで組織する実行委員会(田中良幸委員長)が主催。今年で

第6回を数えます。

当日は、中学生の部(3km)、小学生の部(3km)、一般・高校の部(8km)、ウォーキング・ジョギングの部(3km)の4部門に分かれ、午前9時30分から大垣城ホール前を順次スタート。好天の下、参加者は市役所前、奥の細道むすびの地記念館付近などを駆け抜け、ゴールである大垣駅通りの新大橋を目指して

快走しました。

沿道では、ゲストランナーの千葉真子さんと川上直子さんがハイタッチで参加者を激励。ま



商店街の皆さんによる振る舞い

た、プロ野球阪神のあずはた小豆畑真也さん(西濃運輸出身)、大垣ミナモソフトボールクラブの4選手も駆けつけ、大勢の観客とともに、熱い声援を送りました。

ゴールした参加者は、商店街の皆さんによって振る舞われた白玉ぜんざい、みそ汁を味わったほか、かみいしづ温泉の足湯で体を温めて、疲れを癒やしました。

「交」テーマに事業推進

1月7日、恒例の年頭記者会見が行われ、小川市長が今年の市政運営や事業企画における抱負を語りました。

今年のテーマは「交」。少子高齢化により生産年齢人口が減少しているなか、定住人口や交流人口の拡大が望まれます。このため、多くの人が「交わる」暮らしよいまちづくりを進める一年を目指し、多彩な事業を展開します。

まず、市政運営について市長は、「景気は回復傾向ではあるが、依然として地方自治体は厳しい財政状況である。限られた財源のなかで、定住人口や交流人口の拡大を目指し、大垣駅南北の再開発や活性化などのほか、子育て日本一や、安心・安全などの各種事業を積極的に進め、『日本一住みやすいまち大垣』の実現に向け取り組んでいきたい」と述べました。



次いで、5つの大きな事業計

画を紹介。松尾芭蕉の生誕370年を記念し、年間を通じ芭蕉や俳句にちなんだ事業を展開する「おおがき芭蕉生誕370年祭事業」や、おくのほそ道の風景地として「大垣船町川湊」が国名勝指定を受けることを記念し、ともに指定を受ける11市町と連携して行う「国名勝指定記念事業」について説明を行いました。

このほか、ソフトボール国際大会の開催を通じた「ソフトボールの都市OGAKIづくり」、ソフトピアジャパンやI AMASと協働した幼児教育アプリの開発、市内の小中学校にふるさと学習科目として「ふるさと大垣科(仮称)」を設置する「ふるさと大垣推進事業」についても紹介。

市長は、「これらの事業を通じて、多くの市民の皆さんに交流の輪を広げていただきたい。」と述べました。

